

編集後記

PROBE 第一三号をお届けします。今年も発行することができました。執筆をしていた方々に心より感謝申し上げます。

九月六日未明に北海道胆振東部地震が発生した。私の住んでいる札幌も揺れは大きかった。一度寝たら余程のことでは起きない私も、飛び起きた。という表現に近い。停電で情報はラジオからしか得られなかった。次の日の夕刊の写真を見て驚いた。胆振東部の山々が土砂崩れを起し、本来なら木々の緑で覆われている山々に何十本という茶色の筋が走っている。その崩れた土砂に埋もれて四〇人以上の方が亡くなった。被害に遭われた方々に心よりお悔やみを申し上げます。……よく使われる言葉だが、まさしく「自然の脅威」を実感させられた。

北海道全域がブラックアウト状態になり、場所によっては四〇時間以上も停電が続いた。高層マンションでは電気が止まると水も使えなくなる。トイレも使えない。冷凍庫の冷凍食品も駄目になる。スマホも、個人のバッテリー切れもさることながら、アンテナ基地局のバッテリーが切れると使えなくなるという。如何に電気に頼った生活をしてきたのか、と考えさせられる。

豪雨、台風、暑さ等々、明らかに異常気象、自然災害が続いている。大げさではなく私たち人類の暮らし方に対して、人類生存をかけた地球からの警告と思えて仕方がない。

平成が終わる。平成に「成る……という感じではなかった三〇年だった。現在、戦後最長の景気回復と言われているが、実感は伴わない。経済指標が良い数字を出しているようだが（最も統計データそのものが怪しくなってきた……）、単に格差が広がっているだけだろう。

「実感」。演劇に携わる者にとって最も重要な感覚だと思っている。役者は相手役者を、舞台や客席の雰囲気や、常に感じて、いなければならぬ。この皮膚感覚とでもいうような感覚。データだけはない。この「感覚」が舞台でもそして実生活でも、生きていく上でも重要だと私は感じている。

札幌にも市民交流プラザ hitaru が出来た。全国的に見ても誇ることのできる劇場が建った。演劇に関わっているものとしてうれしいことではある。ただ、演劇（文化）が富めるもの娯楽には成り下がってほしくない。hitaru が今後どのような展開をみせるか。そういう意味ではオーピングの「堀尾幸男舞台美術展」において、小・中・高校生向けワークショップを開催してくれたことをうれしく思う。今後の展開に注目しようと思う。

(marumu)

責任編集
編集委員
表紙デザイン

森一生・村松幹男
田光子・平井伸之
森井綾

舞台芸術通信 PROBE (プローベ) 第 13 号

2019 年 3 月 10 日発行 (非売品)

発行所 北翔大学北方圏学術情報センター ポルト
舞台芸術研究プロジェクト
(ポルト共同研究プロジェクト 舞台芸術研究グループ)
〒069-8511 北海道江別市文京台 23
北翔大学教育文化学部芸術学科舞台芸術分野内
PROBE 編集事務局 (村松研究室)
TEL.011-386-8011 (代表)
印刷 (株)アイワード